

国語 第3学年 登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名「登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう」 教材名「春風をたどって」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。(C(1)イ)

人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。〔知識及び技能〕(1)オ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける。この教材では、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

気持ちの語が出ない場合も、行動をどう説明したかを先に聞く。本文の根拠と自分の想像を分ける。想定する難しさは、気持ちを表す一語を当てるだけで終わる。評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～4時：○人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第5～7時（本時）：○人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。本文の語を根拠

に気持ちを説明し、異なる考えは根拠の違いを比べる。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第8時：○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でもう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（5／8）

（1）本時の目標

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（C(1)イ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」

【めあて】人物の行動と気持ちを、春の様子を表す叙述と結び付ける。

予想される児童の反応：・行動だけでなく周りの様子も手掛かりになる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」

人物が動いた場面を選び、その前後の叙述と風景の言葉を読む。本文の語を根拠に気持ちを説明し、異なる考えは根拠の違いを比べる。

選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。

予想される児童の反応：・行動だけでなく周りの様子も手掛かりになる。

・前の場面から考えると気持ちが分かる。

指導上の留意点：気持ちの語が出ない場合も、行動をどう説明したかを先に聞く。本文の根拠と自分の想像を分ける。

想定する難しさ：気持ちを表す一語を当てただけで終わる。

評価では、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えているかを、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

行動・叙述・想像した気持ちの対応メモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・前の場面から考えると気持ちが分かる。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「行動の前後にある言葉から、どんな気持ちが想像できますか」。中央は、行動・叙述・想像した気持ちの対応メモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

